

奈良大学における電子図書館への取り組み

奈良大学図書館 磯野 肇

1

電子図書館の事例

- 電子図書館の定義
 - 電子化された資料があり、利用者が来館せずにコンピュータを通じて必要な資料などを利用できる図書館。
(『最新図書館用語大事典』から)
- 実施例
 - 貴重資料の公開
 - 大学などが所蔵する貴重書等のWeb上での公開
 - NAISTの例
 - LIMEDIOを用いた電子図書館システム

2

奈良大学電子図書館の目的と方法

- 目的
 - 学内出版物の公開・配布・研究活動のPR・Web公開による広報効果。
- 方法
 - 図書館システムLIMEDIOの「電子図書館」サブシステムを活用して、PDFファイル化した出版物の全文を図書館ホームページから閲覧可能にする。
- 電子化することが最終目的ではない
 - 公開・配布・伝達の一方法として電子化しWeb上で活用。

3

利用法

- 利用方法 OPAC・ホームページから
 - 検索
 - 目次の表示
 - アブストラクトの表示
 - 全文PDFの表示
 - 目次・論文要旨からは検索できるが、本文のフルテキスト検索は現段階では不可。
 - ホームページから直接 全文PDF を表示

4

作業手順A(紙媒体から)

- 背の裁断
 - スキャナーのフィーダにかけるため、背を裁断してバラバラにする。
- データ入力(目次・著者名・アブストラクト)
 - エディターによりLIMEDIOに登録できる形でデータを作成する。

5

作業手順A(紙媒体から)

- スキャナー・OCR作業(PDFファイル化)
 - 「アクロバット6.0」、「読んでココ」を利用して目次データ単位でスキャンする。原稿・スキャナーに応じて調整が必要。

【参考】

文字ばかりのページ

- 白黒2値 解像度400dpi
白黒写真あり
- グレースケール 解像度200dpi 256階調
カラー写真あり
- カラー 解像度200dpi 256階調

(平成16年度NAIST電子図書館学講座「電子化作業の実習」資料から抜粋) 6

作業手順A (紙媒体から)

- LIMEDIOへの登録
 - コマンドラインからの登録。業務サーバー、検索(OPAC)サーバーへ所定のデータを登録する。
- LIMEDIOでのOPACへの転送処理
 - 夜間処理でデータを機械的に生成する。(翌日からOPACでの検索が可能となる。)
 - OPAC検索の対象としない場合は、PDF全文データへのリンクページを作成する。

7

作業手順B (データから)

- 目次・論文要旨データの作成
 - エディターでLIMEDIOに登録できる形にテキストファイルを加工する。
- PDFファイルの加工
 - 「アクトバット6.0」を利用して目次データ単位に切り分ける。「読んでココ」で透明テキスト化することもできる。

8

作業手順B (データから)

- LIMEDIOへの登録
 - コマンドラインからの登録。業務サーバー、検索(OPAC)サーバーへ所定のデータを登録する。
- LIMEDIOでのOPACへの転送処理
 - 夜間処理でデータを機械的に生成する。翌日からOPACでの検索が可能となる。
 - OPAC検索の対象としない場合は、PDF全文データへのリンクページを作成する。

9

効果と問題点

- 効果
 - いつでもどこでもインターネットで閲覧できる
- 問題点
 - 電子化に時間と手間とスキルが必要
 - 外注せず、コストをかけない場合
 - やる気・根気・使命感
 - 著作権
 - 紙媒体出版物での著作権関係は明確か？
 - インターネットで公開することについて、著作者の許諾が必要か？

10

まとめ

- 目的と方法
 - コンピュータは何ができるのか。どこが優れているのか。
 - 記憶、検索、並替え、繰返し、印刷
 - 目的に対して適切な方法になりうるか？
- お金と時間と人材
 - 手段を遂行するために必要なものは？
 - 労力・努力・センス
- 仮想(Virtual)と現実(Real)
 - 電子化はVirtual? Real? 真実は？
- 教育の目的とは？
 - 教育基本法 第1条(教育の目的) 人格の完成をめざすとは？

11

参考文献

平成16年度NAIST電子図書館講座「電子化作業の実習」資料

isonoh@aogaki.nara-u.ac.jp
http://library.nara-u.ac.jp/

12
